２	一宮	一宮市立富士小学校	ハヤシ　ミ ズ キ 名前　　林　みずき

分科会番号	２０	分科会名	総合学習

研究題目

「子どもたちが生き生きと活動する総合的な学習の時間の展開」

～実生活・実社会に生かす環境教育～

研究要項

１　研究のねらい

本校４年生は、環境保全に努める心を育てることを目標とし、エコ活動に取り組んできた。今年度は、特に実際の生活と学びをつなぐことを意識し、実践を進めていきたいと考える。

昨年度は、一宮市環境センターの見学、緑のカーテン講座を１学期に行い、２学期に調べ学習、３学期の学習発表会でまとめの発表を行った。児童は、環境に関することを思い思いに調べ、まとめることができた。しかし、まとめが地球温暖化、生物多様性といった、実生活との結びつきが弱く、知識中心の内容になっていた。そこで、本年度は、児童が自分で働きかけることができる取り組みとして、一宮市環境センターのリサイクルセンターでの学び、ひょうたん栽培による緑のカーテン作りに重点を置き、２学期のインターネットを活用した調べ学習、３学期の新聞を使った発表につなげたい。昨年度の実践に加え、新聞を活用することでより社会への関心を高め、自分ごととして考えを深めさせたい。

これらの実践を通して、環境への関心を高め、実生活・実社会に結び付けるために教科を横断的に学習し、より良い生活・社会のために自ら考え、実行する児童の育成を目指す。

２　目指す児童像

体験的・活動的な実践を通して、学習したことを実生活・実社会に生かすことのできる児童

３　研究の仮説

仮説　体験的・活動的な実践を行い、新聞を活用することで社会への関心を高めることができれば、学習したことを自分ごととして考えることができ、より実生活・実社会に生かすことができるであろう。

4　研究の方法

（1）研究の手立て

仮説の検証をするために、以下の手立てで指導し、その有効性を考察する。

【仮説に対しての手立て】

手立て　体験的・活動的な実践の場の設定

・一宮市環境センターのリサイクルセンターの見学（関連：社会「住みよいくらし」）

・緑のカーテン作り（関連：理科「季節と生き物（1）植物を育てよう」）

・新聞切り抜きスピーチ（関連：国語科「新聞を作ろう」）

・学習発表会での発表

（2）活動計画

今年度は、昨年度の実践をふまえ「新聞活用」を取り入れた実践を行っていきたいと考えた。そのため、新聞を扱った単元を本来の時期よりも早く学習するなどのカリキュラムマネジメントを行った。また、新聞に慣れ親しませるために、朝の会の日直の活動に、新聞スピーチを取り入れた。

段階	時間	学習内容
つかむ	４月～６月	○オリエンテーション「守ろう地球！ストップ環境破壊！アジェンダ富士２１！！」 ○校外学習での施設見学 ・環境センターの見学を通して、ごみ処理の仕組みを理解する。 ※社会科「住みよいくらし」の学習 ・単元「ごみのしょ理と利用」「水はどこから」の学習を通して、自分たちの身近にある「環境」への興味関心を高める。 ※理科「季節と生き物（1）植物を育てよう」の学習 ・学習内容が変更し、昨年度のツルレイシから今年度はヒョウタンに変わった。これを育て、緑のカーテンへの興味をもつ。 ※国語科「新聞を作ろう」の学習 ・新聞を扱う単元を先に行うことにより、新聞への興味関心をもつ。 ○朝の会での新聞切り抜きスピーチの実施 ・新聞に慣れさせるために、朝の会で日直から１分程度の新聞切り抜きスピーチを行う。 ○学んだことを新聞にまとめる

		・国語科の授業で行った新聞の書き方をもとにして、一宮市環境センターの見学や、授業で学んだことを新聞形式にしてまとめる。
探究する まとめる	９月～10 月 11 月～12 月	○環境についての新聞記事を集める ・学習発表会に向けて、環境に関する新聞記事をスクラップする。 ○学習発表会に向けての調べ学習 ・学習発表会に向けて、「地球温暖化」「水質汚染」「大気汚染」「森林破壊」という生活に身近な問題について調べ学習を行う。 ・調べた内容を、タブレット端末を使ってまとめる。 ・項目ごとにグループ分けを行い、模造紙に自分たちが調べた内容をまとめ、その際に、スクラップしておいた新聞記事を活用する。
伝える	１月	○学習発表会で発表 ・学習発表会にて、タブレット端末でまとめていた内容を、保護者に向けて発表する。また、グループごとに模造紙にまとめたものを廊下に掲示する。 ○自分たちにできることを宣言する。 ・学校・家庭・地域で自分たちができることを全校に宣言する。

５　研究の実践

（１）一宮市環境センター見学

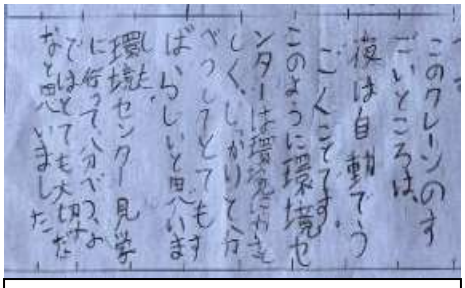
リサイクルセンター見学

　実生活・実社会に生かすことができるように、社会科の「ごみ処理と利用」では、４Ｒ（リデュース、リユース、リフューズ、リサイクル）に重点を置いて学習させた。児童はリサイクルセンターで、不燃ごみや粗大ごみ、空き缶や金属類が処理される様子をビデオで見たり、選別されて再生工場に運ばれる前のアルミ缶やスチール缶の塊を触る体験をしたりした。また、リサイクル展示室では、粗大ごみとして排出された自転車や家具類等のリサイクル品を見たり、資源のリサイクルの流れを学習したりした。児童は身近なものでもリサイクルできるものがたくさんあることに気づいていた。

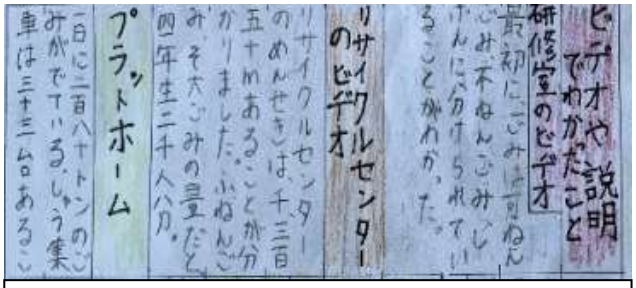
（２）まとめ新聞

　社会科の学習、一宮市環境センターの見学を通して学習したことを新聞形式にして

まとめた。見学時にとったメモと「一宮市環境センター～ゴミと資源について学ぼう～」の冊子を参考に文章と絵でまとめ新聞を作った。「環境センター見学行って、普段の分別がとても大切だと思った。」や「一宮市で一日に出るゴミの重量が４年生何人分」といった記述でまとめることで、より実感を伴った学習になった。また、まとめ新聞を作ることで、環境センター見学でインプットしたことを自分の言葉でアウトプットすることになり、環境を保全する意識の高まりに繋がった。さらに、まとめ新聞を教室に掲示することで、児童同士の新聞を見合い、互いの気付きや発見が共有され、より学びが深まった。



児童の気付き

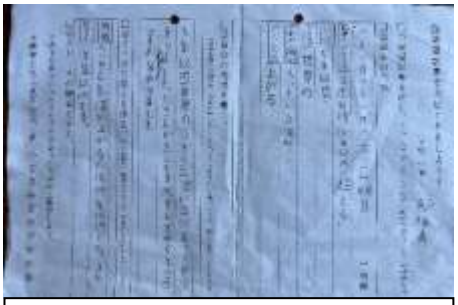


見学のまとめ

（３）朝の会の新聞切り抜きスピーチ

昨年度の実践に、環境に関する新聞をスクラップする活動を加えるため、カリキュラムマネジメントを行い国語科の単元を入れ替えた。「新聞を作ろう」の単元を５月に設定し、新聞の工夫や特徴を確かめて新聞に触れさせる機会を設けた。学習後から朝の会で新聞スピーチを行った。１学期は、新聞になじみをもたせるため記事内容を制限せず、自分が興味をもった記事をスクラップし、内容の要約と感想を発表した。新聞をとっている家庭がクラスの２割程度で、初めて新聞を読む児童がたくさんいた。実践当初は新聞を読むことに時間がかかっていたが、１学期の終盤には、朝教室に新聞が届くことを楽しみにいている児童が見られた。２学期からは環境に関する記事を探して集め、自分の考えをまとめていく予定である。

スピーチする児童



スピーチ原稿

新聞記事

新聞記事

（4）緑のカーテン

理科の「季節と生き物」の単元で、緑のカーテンについて学習した。学習内容を実生活に生かすということで自分たちの教室に緑のカーテンがかかるように育てている。「２階の教室までツルが伸びてきたら、日陰になって少しは涼しくなるのではないか。」や「葉っぱの間から風が来るから少しだけ涼しいのではないか。」という予想をし、５月に種をまいた。６月末からツルが伸び始め、児童は２階の自分たちの教室までツルが伸びてくるのを期待している。２学期には、緑のカーテンがある場所とない場所の表面温度を計測し、その効果を実証する取り組みをする予定である。

植物の観察

成長中の植物

（5）エコ活動

環境センターの見学を経て、図工や算数の授業で出た細かい紙片を見て、児童から「これを捨てるのはもったいない」「紙をリサイクルしたい」といった声が挙がり、「リサイクルボックス」を教室に設置した。名刺サイズ以上の紙をリサイクルボックスに集め、資源回収に持っていき、リサイクルできるようにしている。また、普段からごみの分別をしていたが、可燃ごみ・資源になるもの・不燃ごみの分別の意識の高まりが見られた。以前は可燃ごみのごみ箱にビニールやプラごみが混入していたことがあるが、環境の学習後は、児童一人ひとりがごみの分別を徹底している。

リサイクルボックス

（6）学習発表会に向けての取り組み

10 月頃から、学習発表会に向けての調べ学習を行う予定である。調べる内容は、「地球温暖化」「水質汚染」「大気汚染」「森林破壊」の４項目である。項目ごとのグループに分かれて、まずは個人でタブレット端末を用いて、調べ学習を進め、その内容をまとめる。

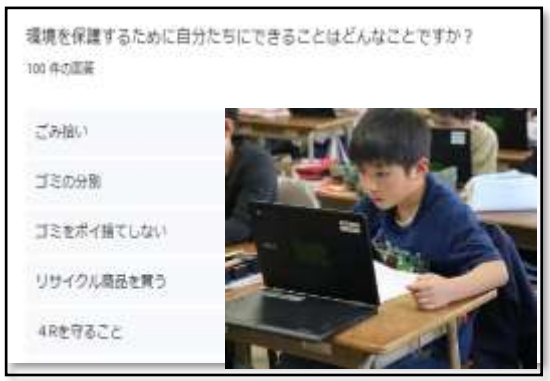
その後、同じ項目を調べている児童同士でグループをつくり、自分たちで調べた内容を模造紙にまとめる。その際、スクラップしておいた新聞記事を活用する。１月の学習発表会にて、個人で調べた内容を保護者へ発表し、グループごとにまとめた模造紙は、廊下へ掲示する。これらの活動を通して、児童の環境保全のために、今の自分たちにで

きることを考える気持ちを高めたい。

6　研究の成果

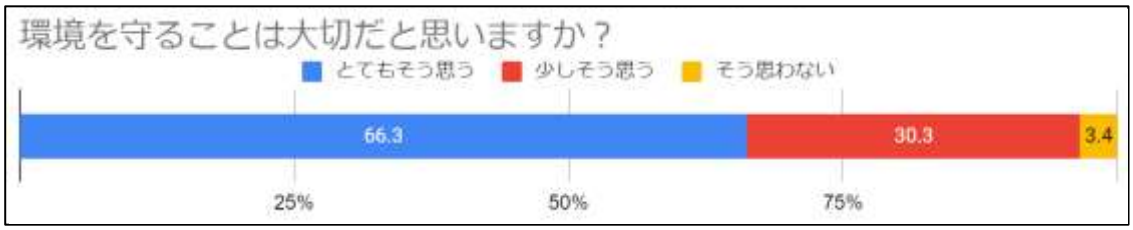
学習前は、環境に対する興味が薄く、ごみの分別や処理の大切さを実感していない児童が見られた。しかし、７月に実施した環境学習に関するアンケートの結果【資料１】から、環境を保護するために自分たちにどんなことができるのかを様々な方法で考えていることが分かる。

【資料１】



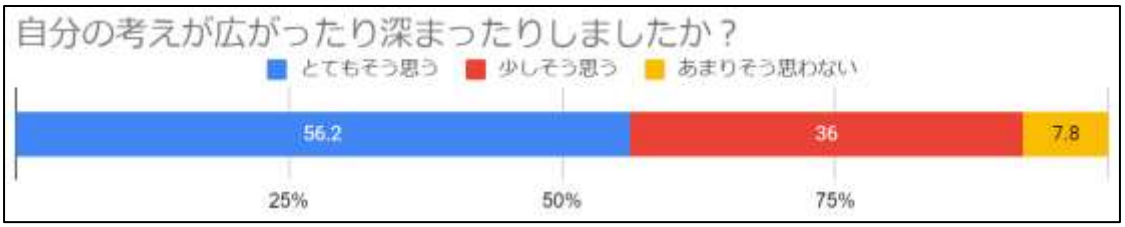
また、【資料２】から環境について学習した後では、環境保護が大切であると思う児童が 96.6%いることも分かる。以上のことから、体験的・活動的な実践をすることで、学習したことをより実生活・実社会に生かそうとする態度が養われたと考えられる。

【資料２】



新聞切り抜きスピーチに関するアンケートの結果【資料３】から、新聞記事を読むことで、自分の考えが広がったり、深まったりしたと考えている児童が 56.2%、少しそう思うを含めると 92.2%いることが分かる。

【資料３】



7　今後の課題

「環境を保護するために自分たちにできることはどんなことですか」というアンケートの記述から、「ごみの分別」「４Ｒに取り組む」「ごみをポイ捨てしない」などの回答が得られた。本研究のねらいは、環境への関心を高め、より良い生活・社会のために自ら考え、実行することである。今後はより身近なものとして捉えるように環境学習に関しての調べ学習や学習発表会、環境保護宣言に向けての取り組みを継続していきたい。